

2026年度 埼玉医科大学短期大学
看護学科 総合型選抜Ⅰ期
小論文

問題用紙 1枚

答案用紙 1枚

無断転載・複製を禁ず

次の文章を読み、内容を 150 字以内に要約しなさい。また、この文章に対するあなたの意見を 300 字以内で述べなさい。

読解力とは、世の中のさまざまなものごとや他者とのコミュニケーションの「場」を正しく理解する力です。読解力を鍛えるために何をしたらよいのか。答えはシンプルです。まずは読解力のベースとなる、知識と教養を身につけましょう。では知識と教養の違いとは、何でしょうか。本や新聞、学校の授業などから得るものは、知識です。たとえば一問一答のクイズに即座に答えることができる人は、知識が豊富で「物知り」です。ただし物知りイコール「教養のある人」とは限りません。物知りは、暗記力を駆使してものごとをバラバラに知っているだけなのです。それらの知識を自分の言葉にして伝えられたり、知識と知識を結びつけて何らかの論理を作ったりと、自由自在に駆使できるようになって初めて、その人は教養のある人だと言えるでしょう。

新型コロナウイルスに関して、さまざまなデマがネット上で飛び交いました。私も知人から、「新型コロナウイルスは熱に弱いので、36 度のお湯を飲めば体内に入ったウイルスも死滅させることができるですよ」というメールをもらいました。その人は善意で連絡をくれたのですが、これは完全なデマですね。ウイルスが熱に弱いのは確かですし、人がときに 40 度近い高熱を出すのは、免疫細胞がその熱でウイルスの不活性化を試みるためです。けれども肺や感染する細胞ひとつひとつにお湯を流し込むことはできないので、お湯を飲んでウイルスを死滅させることは不可能です。少し考えれば、なんだか怪しい話だな、と気づくことができるでしょう。これがまさに、「知識が教養になっていない」例です。「人間の体温は約 36 度」「肺に水を流し込むことはできない」という学校で習うような知識があっても、それがとっさに出てこない人が実際には数多くいるのです。しかしあとからじっくりと考えてみれば、これはおかしい話だと誰しも気づけたはずです。これがつまり知識の運用力、すなわち教養があるかないかの境目と言えます。知識は常に活用していきましょう。そうしておかないと錆びついてしまい、いざというときに役に立たなくなってしまいます。(中略)

基礎的な知識を得つつ、ひとつひとつの知識についてつながりを持って理解できることこそが、知識の運用力、すなわち教養です。世間のさまざまなニュースを読み解く力がついていくのです。「私には教養がないんです」と言う人がいますが、本当にそうでしょうか。義務教育である小・中学校、さらに日本では 99% の人が進学する高校で、誰しも基礎的な知識は身につけているはずです。知識はあるけれども、その運用力が欠けているため「教養がない」と感じてしまっているだけなのです。学校で得た知識を定期テストや受験に使うだけで終わらせず、大人になってからも折に触れて振り返り、生活に応用していくことで、教養は身につけることができます。さらには学び続けていくことで、教養はどんどん鍛えていくことができるのです。

知識を教養に変えていく方法は、たとえるならば、紀元前から人類が連綿と続けてきた酒造りの工程と似ています。ブドウをいっぱい集めて溜めておくと、ブドウに含まれる糖が発酵してワインになります。米は水と麹菌とともに発酵させると日本酒になります。これと同じく、知識がたくさん溜まり発酵が進めば、「教養」になるということです。ただし、ただ溜めておくだけではお酒も腐ります。発酵と腐敗は紙一重なのです。そこで折々に「かき混ぜる」という作業が大事になります。知識も、持っている知識をただそのまま置いておくだけでは、結局腐ってしまいます。ときどき棚卸しをしたり、どんな知識を持っていたかなと振り返って使う、つまり知識をひたすら蓄積しながら、ときどきそれをかき混ぜることで、教養となっていくのです。

(池上 彰 社会に出るあなたに伝えたい『なぜ、読解力が必要なのか?』より。一部改変)

無断転載・複製を禁ず